

2005～06 年度共同研究について

森 島 覚

20 世紀的な社会経済の発展はある意味でアジア・大洋州が下支えしてきた。しかしながら今日、20 世紀的な価値観が総じて限界を呈してきている。さらにまた、アメリカをして中東から東アジアへかけての横軸を「不安定の弧」と言わしめている。そんな中、再び三度ニュージーランド・オーストラリアから東アジアそして日本にかけての縦軸がグローバリゼーションに変わる、これまでのような下支えの役割から脱皮した世界を引っ張っていく、いわば 21 世紀世界の「安定の弧」とすべきであるし、そうなる潜在力を秘めている。

繰り返すことになるが、現代世界の政治・経済・社会情勢をみると、アメリカ一極集中と EU にみられるような地域統合が特徴的である。そのような中でアジア・大洋州圏をみると、豪・ニュージーランド間の経済自由化、シンガポール・マレーシアなどを軸にアジア・大洋州圏での経済自由化構想なども浮上している。大国、中国の存在もある。長らくバブルショックを引きずってきたわが国も、近い将来起きるであろう、アメリカ一極集中の弊害からソフトランディングするためにも、東の「EU」という観点からのアジア・大洋州の地域統合の展望を考察することは喫緊の課題である。とともに、昨（2004）年の 12 月 26 日のインド洋大地震で圧倒的に被害を受けたのは、いわゆる「不安定の弧」の地域でもありそこへの復興支援、社会資本の充実も大きな課題となっている。

また、ごく最近 2005 年 12 月 14 日にマレーシアで開かれた東アジア首脳会議はこの地域にとっての 21 世紀的發展への極めて暗示的出来事（アメリカが入らないところに意味がある）であったといえよう。

そこで、2005～06 年度の共同研究テーマを“アジア・大洋州諸国の 21 世紀的發展の役割”（一経済自由化と政治的均衡をめぐる諸問題一）とする極めて大きなものとするとともに、とりわけ学際的なものとする事とした。これが 7 度目となる追手門学院大学オーストラリア研究所の共同研究の意義と特徴である。

さて、今回は西オーストラリア大学のデニス・ラムレーとオタゴ大学（ニュージーランド）のショーン・ゴールドフィンチという 2 名の研究者を交え、本学からは山中教授（常務理事）、重松教授（文学部長）、南出教授、そしてわたくし森島の総勢 6 名の構成となった。それぞれに資料収集をすすめ、9 月 2 日には先発隊としてゴールドフィンチ、重松、森島がオーストラリア・シドニーにて資料を持ち寄り 2 年間の研究の展開方法を慎重に討論した。それに引き続く 12 月 10 日には本学オーストラリア研究所にて、以下のテーマ・順序にて、

終日、セミナーを行った。(敬称略)

Comparative Studies on the stress management for medical workers in Australia, New Zealand and Japan (森島)

Australia: World Economic Encounter (山中)

Current Tendency of the International Trade between Australia and Asian countries – from the Aspect of Container Shipping – (南出)

Language, Education and Economic and Economic Development in Malaysia: “Efficiency” of Culture (重松)

Australia, New Zealand and the Pacific Island nations – interweaved histories, shared futures – (シヨーン・ゴールドフィンチ)

The Geopolitics of Asia-Pacific Regionalism in the 21st Century (デニス・ラムレー)

第7回共同研究の最初の成果として、このあとにデニス・ラムレー、シヨーン・ゴールドフィンチ諸氏のセミナータイトルと同名の論文を掲載する。

引き続き第2回目のセミナーを2006年9月中旬にオーストラリア・パース(フリーマントル)にて行うことを予定している。日本側の研究分担の報告については、現在資料収集・調査継続中であるものが過半を占め論文については次号の本紀要に掲載する。

最後に、財政事情が逼迫する今日の日本そして大学にあって、学術振興のために毎年予算を認めて頂いている大学当局に感謝するものである。